



神奈川県の学童保育

ホームページ



57全国研 好評のうちに終了 4575名の参加!

第57回の全国学童保育研究集会は、第56回につづいてオンラインを活用して開催されました。2022年10月29日(土)は全体会、30日(日)は「全国研ならではの」の一つである多様なテーマの分科会が実施されました。

神奈川県内からは保護者、指導員、関係者等331人が参加し、学習しました。

1. 全体会では、全国各地の12の学童保育をライブでつなぎ、子どもたちの学童保育での日常の様子を配信した歓迎行事からはじまり、厚生労働省子ども家庭局子育て支援課健全育成推進室室長補佐による来賓挨拶、全国連協・高橋誠事務局長による基調報告、岩手県大船渡市の指導員・北海道札幌市の保護者・山形県山形市の指導員による特別報告、全国5地域からのビデオメッセージによる『日本の学童ほいく』普及拡大アピール、フォトジャーナリストの安田菜津紀さんによる「紛争地、被災地に生きる子どもたち～取材から見てきたこと」と題した記念講演が行われました。

2. 分科会は、都道府県の連絡協議会が配信を担い、26分科会40テーマに分かれて交流・学習が実施されました。全国研で大切にされてきた「参加者同士の交流」も含めた主体的な学びの場をとの希望に考慮し、講師による講義の分科会も終日実施のテーマを設けられたこと、第56回で講義の分科会「学童保育の生活づくりと食」として実施されたものを「学童保育の生活づくり」分科会に位置づけて実施されたこと、「地域の専門機関・専門職等との連携」が再開されたこと、「子どものからだと生活」の分科会名が変更され「子どものからだと健康——小児医療現場からの支援」となり、講師陣に新たな顔ぶれが迎えられたことなど、内容の充実がありました。

3. 参加者からは「はじめて参加しました。子どもたちのいまや将来を大切に思うおとながこんなにたくさんいて、悩んでいることがとても心強く、自分のできることをもっと探求していきたいなとやる気がわいてきました。準備等大変だったと思います。ありがとうございました」「遠出や人混みが苦手なため、リモートはとてもありがたく、参加しやすい。同僚だけの空間で、リラックスして集中できた」「リモートだから参加できるというのは、ひとつのメリットだと思います。しかし、全国規模の集会を体験した私は、あの光景を味わってほしいとの思いもあります。いつかまた再開できる日を願っています」などなど、たくさんの感想が全国連協に届いるとのこと。

4. 神奈川県学童保育連絡協議会が担った当日の役割は以下のとおり。

■ 分科会世話人

- 第2-⑥分科会 学童保育の生活づくりと食(平塚)
- 第22分科会 子どものからだと健康(逗子)
- 特設分科会 学童保育での衛生管理と感染症対策(横須賀)
- 第3分科会 (横浜)
- 第5分科会 (横浜)
- 第9分科会 (川崎)
- 第14分科会 (川崎)

■ 分科会配信

- 第2-⑥分科会 学童保育の生活づくりと食(平塚)
- 第22分科会 子どものからだと健康(横須賀)
- 第3分科会 (横浜)

■ グループ討議の進行役

- 第2分科会-⑦(学童保育の生活づくり)(横須賀)

■ 全体会配信

- オープニングの作成・配信業務(横浜)
- 全体会通しての配信サポート(横浜)

29 (土) 全体会

30 (日) 分科会

全 国 学童保育研究集会

「Zoom」によるオンライン開催
2022年10/29(土)-30(日)

◆参加費 4,000円(1日の参加・両日参加ともに同額)◆主催: 全国学童保育連絡協議会 ◆後援: 厚生労働省
問い合わせ先: 地域連絡協議会もしくは、全国学童保育連絡協議会(☎03-3813-0477/月曜日-金曜日10:00-17:00)
E-mail d57zkk@xvg.biglobe.ne.jp http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou/zenkokuken/d57/

県内からの参加者より、参加レポートが届きましたので、紹介します。

第57回全国学童保育研究集会に参加して

第57回全国研しポ

事故で遅刻はしたけれど

立場学童保育所はればれクラブ
指導員 堀江 恵理子

コロナ禍で、全国の指導員の仲間や保護者との直に交流の場が無くなってしまったのは残念ですが、反面、学童保育士協会の研修や全国連協の研修等に休みを取って出かけて行かなくても職場や自宅から参加しやすくなったのも事実です。今回の全国研もそのつもりでいたら、「全体会の講師のために会場を取って、100人以上入るところを押さえたので、東京の本部に近い県の連協役員で頑張って来れる人は来てください。」という連絡が直前に入り、急遽、東京に向かうことになりました。ところが、横浜に着いたところで、東海道線と京浜東北線が事故で動かなくなり、京急や東京メトロを使ってやっと会場に着いたら、見たかった歓迎行事は終わっていて、がっかり。

それでも講師の話を直に聞くことが出来たのは良かったなと思いました。ジャーナリストとして、戦地に出かけて取材されている講師のお話はとても貴重だと感じると共に、常に世界中のどこかしらで戦争があり、一般市民が巻き添えに会い、子どもたちも殺されたり、手足を失ったりしていることに気が滅入ります。でもそのことに眼を逸らしてはいけないし、私たちも決して他人事ではなく、この狂気にいつ巻き込まれるか分からないことを被災地の子どもたちの映像を見ながら、世界平和の実現、地球温暖化にストップをかけることの重要性を再認識しました。私たちが関わっている未来を担う子どもたちに、平和で自然豊かで暮らしやすい世界をバトンタッチ出来るよう、努力するのは大人の役目だと強く思いました。

午後の分科会については、次の機会に報告できたらと思います。

お申込みは1月31日まで!

第46回神奈川県学童保育研究集会

日時：2023年2月12日(日) 10時00分～16時00分

開催方法：Zoomミーティングと一部現地参集(横浜社会福祉センター：桜木町駅前)

参加費：2,000円/人(全体会のみ、分科会のみでも同額です)

<https://forms.gle/8Ccb4cXhM3fRgidy7>

午前(全体会) 10時00分～12時00分

記念講演 制度から見えてくる課題と子どもの非認知能力(仮)

講師 植木信一(新潟県立大学)



午後(分科会) 13時00分～16時00分

①ようこそ学童保育へ ～「ただいまー!」「おかえりー!」～/②子どもとインターネット(YouTube、ゲーム)/③アンガーマネジメントを学ぶ ～怒りの感情と上手に付き合うには～/④子育てに悩むあなたへ(子どもと向き合う)/⑤子どもの生活を伝え合う(おたより・通信の検討会)/⑥障害のある子どもの理解と生活作り～受け入れから保護者理解まで～/⑦子どもとのかかわり(グループ交流) /⑧神奈川県の学童保育～国の制度と地域の課題

2022年度「秋の学習会」を開催

10月10日(日)桜木町健康福祉センターにおいてzoom併用で行いました。

講師に、元横浜連協会長・元全国連協副会長であり東京高等教育研究所研究員の森山民雄さんをお迎えして「こどもを育てる学童保育」と題して学童保育の基本に立ち返ったお話を伺いました。

森山先生は地元横浜で古くから学童保育のつくり運動に携わり、横浜学童保育の生みの親とも言える存在で、学童保育の本質、目指すところなど、蘊蓄深い講演内容が展開されました。

「一見ばかばかしいと思えるようなことに子どもたちは目をキラキラさせて夢中に取り組みます。それこそが、子どもの自立心を芽生えさせ、成長と発達に最も大切なことなのです」との森山さんの語り一同納得すること然りでした。

当日は現地参加9人にZoom参加を合わせて13人とやや小人数でしたが、充実した時間が持てました。

終了後、森山さんを囲んで、久しぶりの懇親会をやりました。

コロナ禍で懇親会はすっかり影を潜めていましたが、「やっぱり会ってみんなで飲むのが一番だよなあ」の声しきりでした。

月刊『日本の学童ほいく』を読みましょう

2022年11月号～12月号に掲載されている神奈川からの投稿

<2022年11月号> 特集「知って・学んで・考える」ー子どもとインターネットー

◆ 「学童保育間の交流にも活用を！」ー 岩渕康之さん[川崎市 指導員]

■ 私の「〇〇の秋 part2」「なんとと言ってもサンマです」 浅水弘子さん(三浦市指導員)

○ 「出会い集い父母会」やれる人が、やれるときに、やれる範囲で。そして楽しく
後藤かほるさん(川崎市学童保育おかりな 保護者)

■ 子どもランド 上野愛実さん[横浜市鶴見たけのこ学童クラブ]

近どうはるきさん[横浜市西柴学童保育]

<2022年12月号> 特集「生活の場としての施設と環境を考える

「木のぬくもりあふれる施設を子どもたちに！」

市来久恵さん(横浜市くでん学童保育所 保護者)

◆ 「作文」ー 小川ゆうたろうさん[横浜市みつばちクラブ 2年生]

■ 子どもランド しばた そらさん[横浜市あい・しらね学童保育]

勝又葉月さん[横須賀市もりさきたぬキッズ]



あなたも読んでみませんか？

月刊『日本の学童ほいく』 定価 391円/冊
全国連協が作る、日本で唯一の学童保育専門誌



- ・働きながらの子育てに！
- ・指導員の実践(生活づくり)に！
- ・保護者と指導員の共感づくりに！

活動報告(2022年10月～2022年11月の主な活動報告)

10月6日(木) 10月度運営委員会	11月10日(木) 11月度運営委員会
10月10日(月・祝) 拡大運営委員会・秋の学習会	11月17日 県民連絡会対県交渉福祉分野
10月13日(木) 46かな研実行委員会②	11月21日(月) 12月度事務局会議
10月20日(木) 全国研神奈川実務者会議	11月24日(木) 12月度役員会
10月23日(日) 全国運営委員会	
10月23日(日) 全国連協総会	
10月29.30(土日) 第57回全国研究集会	
11月1日(火) 46かな研第3回実行委員会	

♪ 地域連協だより ♪

横浜学童保育連絡協議会

横浜連協の最近の動きの一部を毎月発行の「機関紙なかま」から抜粋してお伝えします。10月に横浜市から各クラブに送られたアンケート調査に「運営主体が実施する研修を行なっていますか」との設問がありました。

そのアンケートだけでなく、横浜市が取りまとめている『中期4か年計画』の放課後施策でも目標としてすべての事業所が運営主体が実施する研修を行なうこととなっています。多くのクラブを運営する規模の法人ならともかく、運営委員会や単独のNPO法人の場合、どんな研修を行えばいいのか、???だと思います。

11月28日に行なわれた担当課懇談会で横浜市の考えを聴いてきました。来年度の予算編成にも関わる部分もあるので、限定的な情報ですが、その一部を紹介します。指導員が参加している横浜市の行政研修はもちろんのこと、横浜学童保育指導員会が行なっている自主研修や、連絡協議会が行なう研究集会に参加した指導員や保護者が、そこで学んだことをクラブ内にフィードバックすることは「運営主体が実施する研修」に相当するとのことでした。

実際、市の行政研修、指導員会の研修、研究集会もクラブの全員が参加しているわけではありません。(研究集会は全員で参加してほしいなあ…)

ですので、参加した人が保護者会や指導員のミーティングで、学んできたことを伝えあうということが「クラブとしての研修」になるということですので、是非取り組んでいただきたいことを伝えていこうと思います。

先日開催された『全国学童保育研究集会』もそうですし、来年1月に開催される『横浜学童保育研究集会』

2月号の

「地域連協だより」は秦野市連協の予定です。

お楽しみに！

<これからの主な予定>

12月26日(月)	1月度事務局会議
12月29日(木)	1月度役員会
1月5日(木)	1月度運営委員会(書面開催)
1月15日(日)	新春会長会 「日本の学童ほいく」誌普及推進会議
1月26日(木)	2月度役員会
2月2日(木) 19:30～21:30	2月度運営委員会
2月12日(日)	第46回神奈川県学童保育研究集会

